



月刊えるでは市民活動（NPOやボランティア、地域活動など）で活躍中の方々を少しずつご紹介していきたいと思っています。
これらの活動で出会える・ふれあえる・学びあえる、そしてつながるを応援します。

今月のイチオシ

一般社団法人「FBQフードバンク大牟田」さん

えるで開催している「地域食堂」へも食材提供をして頂いている団体さんです。

令和3年7月に組織をリニューアルされるということでお話を伺いました。



～はじめに～

私たちが暮らしている日本では、食品がまだ賞味期限内で安全に美味しく食べられるのに、外箱の破損、印字ミス、大きさや形の規格外、流通ルールや食べきれないなどの理由で大量に廃棄されています。その「食品ロス」の量は年間612万トンで、日本人1人当たりが毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てているのと同じ量になります。その一方で、失業・病気・コロナ禍の影響・被災などいろいろな理由で、その日の食べ物にも困っている方がたくさんおられ、しかも年々増えているという現状があります。相対的貧困率は7人に1人の割合で、世界の先進国の中でも3番目の高さなのです。

～フードバンクとは～

その余っている食品と必要としている方々を繋ぐのが「フードバンク」という仕組みです。

フードバンクを直訳すれば『食品の銀行』という意味の社会福祉活動です。食品製造・卸売・小売・農業関係などの食品関連企業、また個人の方からまだ安全に食べられるけど不要になった食品の寄贈を受け、各種支援団体・福祉施設・子ども食堂、社会福祉協議会さんを通して支援が必要なご家庭に無償で適切に配る活動を行っています。

～「もったいない」を「ありがとう」へ～

食のセーフティーネットを構築し、社会的弱者と言われる方の孤立を防ぎたい。フードバンク活動によって地域のコミュニティ形成に貢献し活性化の一翼を担いたいという思いで活動してきました。



～防災福祉ステーション構想～

昨年「令和2年7月豪雨」災害が発生し、大牟田市にも甚大な被害が出ました。被災された方々に食糧支援を行いながら痛感したのは、災害が起こってから動くのでは遅いということです。日頃からの準備が重要で、災害発生時に速やかに行動できるネットワークが必要だということです。



～今後の取り組み～

令和3年7月に「フードバンク大牟田」は組織を法人化しました。これを機にフードバンク活動だけではなく、防災活動や災害復興支援、その他の生活支援などにも取り組みます。そして災害発生時に支援物資の受け取りと分配などを行う被災者・被災地支援と福祉活動の拠点を構築することを目指します。一朝一夕に実現できることではありませんが、皆様のご協力をいただきながら着実に一步一步進めていきたいと思っています。

**問合せ：一般社団法人
FBQフードバンク大牟田**
事務局長：河野 咲登
住所：大牟田市手鎌304-5
E-mail：foodbank_omuta@yahoo.co.jp
開所日：火・木・土曜日
時間：10:00から16:00
WEBサイトあります
「フードバンク大牟田」で検索ください